

全国学力・学習状況調査の結果について③：数学

4 月 17 日（木）に行われた全国学力・学習状況調査の数学の分析結果を紹介します。
前々号でも示したとおり、本校の数学の結果は「概ね平均」でした。

領域ごとにみると、「B 図形」で県・全国平均を上回っており、成果と捉えています。また「A 数と式」「C 関数」は、県平均を上回っています。

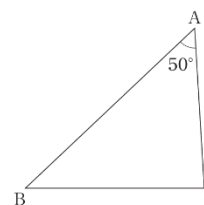
例えば、右の 1 から 9 までの数の中から素数を全て選ぶ①の問題〔正解は 2、3、5、7〕

は全国を 5.3 ポイント上回りました。この問題は全国的に正答率が低い問題でした。

① 下の 1 から 9 までの数の中から素数をすべて選び、選んだ数のマーク欄を黒く塗りつぶしなさい。

1 2 3 4 5 6 7 8 9

③ 下の図の△ABCで、頂点Aにおける外角の大きさを求めなさい。



また、右の頂点Aにおける外角の大きさを求める③の問題〔正解は 130°〕も、全国を 11.9 ポイント上回りました。

それぞれ、「素数」、「外角」の意味を理解しており、定義を正しく理解している生徒が多いことがうかがえます。

一方、「D データの活用」は、県・全国平均を下回っており、課題と捉えています。

例えば、右の度数分布表から、20m 以上 25m 未満の階級の相対度数を求める⑤の問題〔正解は 0.25〕は、全国を 6.5 ポイント下回りました。「相対度数」とは「各階級の度数を、度数の総和で割った値」と、1 年生の教科書に定義が示されています。全体の数がちがう複数の集団のデータを比べるときに効果的です。

ハンドボール投げの記録

階級 (m)	度数 (人)
以上 未満	
5 ～ 10	3
10 ～ 15	8
15 ～ 20	9
20 ～ 25	10
25 ～ 30	6
30 ～ 35	3
35 ～ 40	1
合計	40

また、じゃんけんで必ず A が勝つ確率を求める⑦(1)の問題〔正解は 1〕も、全国を 5.5 ポイント下回りました。

先ほど成果と述べた定義の理解は「D データの活用」においては課題のようです。

国語と同様に、リーディングスキルの「具体例同定」「推論」を念頭に置きながら、授業での指導はもちろんリーディングスキルノートによる家庭学習で、課題解決を図っていく予定です。

(1) 優斗さんと芽依さんは、前ページの進め方では、右の図のように A と B のそれぞれの手元のカードが同じ絵のカードになる場合があることに気づきました。

A の手元のカードが 3 枚とも「グー」、B の手元のカードが 3 枚とも「チョキ」で 1 回目を行うとき、次のことがいえます。



1 回目は必ず A が勝つから、1 回目に A が勝つ確率は である。

上の に当てはまる数を書きなさい。

【文責：校長 工藤雅史】